

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習
科 目 名	小児看護学実習		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	90 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	3年		学期及び曜時限	通年	教室名	実習施設
担 当 教 員	日下部 麻美	実務経験と その関連資格	看護師として重症心身障がい者病棟・養護学校で勤務していた。			
<p>《授業科目における学習内容》</p> <p>実習目的は、「子どもの各期における成長・発達を理解し、成長発達段階や健康段階にある子どもとその家族に応じた援助を行うための知識・技術・態度を学ぶ」である。この目的を達成するために保育所と病院で実習する。実習目標は、保育所では「健康な乳幼児期の子どもの成長・発達と、健全な成長・発達を促すための保育のあり方について理解し、安全に配慮して子どもと家族を尊重した関わりをすることができる」、病院では「健康障害によって入院を余儀なくされている子どもと家族について理解し、その子どもの成長・発達および健康回復を促す援助について考えることができる。また、安全・安楽に配慮して子どもと家族を尊重した関わりをすることができる」とする。</p>						
<p>《成績評価の方法と基準》</p> <p>1) 実習評価の対象および単位認定は出席状況が実習全期間2/3以上の出席が必要である。 2) 実習の評価については、実習態度・実習内容・カンファレンス参加状況により、総合的に指導者と担当教員が評価する。 3) 評価基準については①看護を学ぶこと、対象への関心・意欲、学ぶ姿勢、態度 ②看護実践を考える思考・判断 ③看護の基本的な技術・表現 ④看護活動に対する理解・知識の4つの観点で分類し、さらに実習の目標に沿った学習活動から20(保育所実習6、病院実習14)の評価項目を抽出し、ルーブリック(4段階)で評価する(詳細は実習要綱を参照)。 4) 評価は100点満点とする。配点は、保育所実習30点、病院実習70点とする。</p>						
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>小児看護学概論 小児臨床総論、小児看護学各論</p>						
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>①小児援助論Ⅲで事例による看護過程の展開演習(対象理解、記録の書き方) ②実習オリエンテーション(実習要項の説明、実習施設の紹介、注意事項)</p>						
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>事前学習をしっかりと行い、実習に臨むこと。 保育所実習では、保育所に事前連絡をした上で忘れ物のないように準備をすること。</p>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	①保育所のオリエンテーションから、保育所の構造や施設の概要について知る。②対象となるクラスの乳幼児と関わり、年齢別の特徴や留意点、クラスの日課や生活スケジュールについて知る。	所持している教科書・参考書 小児看護学に関する授業資料まとめファイル	実習要項に提示されている事前学習をまとめる。受け持ちクラスの成長発達段階について、様式3-1の事前学習欄をまとめる。実習を通して必要な事前事後学習を行う。	
	各コマにおける授業予定	保育所実習《クラス①での実習》 保育所オリエンテーション 保育士の指導のもと、子どもたちと関わる				
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	①乳幼児の成長発達段階を三側面の視点から観察する。②保育士の指導のもとで子どもに関わり、子どもの反応を観察し、その意味を考える。	所持している教科書・参考書 小児看護学に関する授業資料まとめファイル	受け持ちクラスの成長発達段階について、様式3-1の事前学習欄の不足分を追加する。実習を通して必要な事前事後学習を行う。	
	各コマにおける授業予定	保育所実習《クラス①での実習》 保育士の指導のもと、子どもたちと関わる				
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	①新しいクラスの乳幼児と関わり、成長発達段階を三側面の視点から観察する。②保育士の指導のもとで子どもに関わり、子どもの反応を観察し、その意味を考える。	所持している教科書・参考書 小児看護学に関する授業資料まとめファイル	新しい受け持ちクラスの成長発達段階について、様式3-1の事前学習欄をまとめる。実習を通して必要な事前事後学習を行う。	
	各コマにおける授業予定	保育所実習《クラス②での実習》 保育士の指導のもと、子どもたちと関わる				
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標	①子どもが安全に過ごすために必要な環境調整について考え、実践する。②子どもとの遊びに積極的に参加し、健全な成長・発達を促すための遊びの意義を考える。	所持している教科書・参考書 小児看護学に関する授業資料まとめファイル	受け持ちクラスの成長発達段階について、様式3-1の事前学習欄の不足分を追加する。実習を通して必要な事前事後学習を行う。	
	各コマにおける授業予定	保育所実習《クラス②での実習》 保育士の指導のもと、子どもたちと関わる 最終カンファレンス、実習記録の提出				
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	①オリエンテーションから施設や病棟、看護の実際について理解する。 ②受け持ち患児の情報収集を行い、患児の健康問題を理解する。	所持している教科書・参考書 小児看護学に関する授業資料まとめファイル	実習要項に提示されている事前学習をまとめる。受け持ち患児の成長発達段階について、様式3-2の事前学習欄をまとめる。実習を通して必要な事前事後学習を行う。	
	各コマにおける授業予定	病院実習 病棟オリエンテーション(外来実習があれば外来オリエンテーション) 受け持ち患児の決定 情報収集、コミュニケーション				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標	①子どもとコミュニケーションをとりながらしっかりと関わり、成長・発達を促す援助について考える。②日々の看護援助を通して情報収集し、患児への理解を深める。	所持している教科書・参考書 小児看護学に関する授業資料まとめファイル	受け持ち患児の成長発達段階について、様式3-2事前学習欄の不足分を追加する。 実習を通して必要な事前事後学習を行う。
	各コマにおける授業予定	病院実習 受け持ち患児の情報収集、全体像の把握 看護援助の見学・実施(外来での見学実習)			
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標	①子どもとコミュニケーションをとりながらしっかりと関わり、成長・発達を促す援助について考える。②日々の看護援助を通して情報収集し、患児への理解を深める。	所持している教科書・参考書 小児看護学に関する授業資料まとめファイル	実習を通して必要な事前事後学習を行う。
	各コマにおける授業予定	病院実習 受け持ち患児の情報収集、全体像の把握 看護援助の見学・実施(外来での見学実習) 遊びや学習支援への参加・見学			
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	①日々の看護援助を通して情報収集し、患児への理解を深める。②健康回復するために必要な援助について理解し、部分的に実践する。	所持している教科書・参考書 小児看護学に関する授業資料まとめファイル	実習を通して必要な事前事後学習を行う。
	各コマにおける授業予定	病院実習 看護援助の見学・実施(外来での見学実習) 遊びや学習支援への参加・見学 中間カンファレンス			
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	①健康回復するために必要な援助について理解し、部分的に実践する。②患児が安全・安楽に入院生活を過ごすために必要な援助について考える。	所持している教科書・参考書 小児看護学に関する授業資料まとめファイル	実習を通して必要な事前事後学習を行う。
	各コマにおける授業予定	病院実習 看護援助の実施(外来での見学実習) 遊びや学習支援への参加・見学			
第10回	実習形式	授業を通じての到達目標	①健康回復するために必要な援助について理解し、部分的に実践する。②遊びやレクリエーション、学習支援への参加を通して、入院中の遊びや学習の重要性を理解する。	所持している教科書・参考書 小児看護学に関する授業資料まとめファイル	実習を通して必要な事前事後学習を行う。
	各コマにおける授業予定	病院実習 看護援助の実施(外来での見学実習) 遊びや学習支援への参加・見学			
第11回	実習形式	授業を通じての到達目標	①健康回復するために必要な援助について理解し、部分的に実践する。②受け持ち事例を通して、継続看護の必要性・方法について考える。	所持している教科書・参考書 小児看護学に関する授業資料まとめファイル	実習を通して必要な事前事後学習を行う。
	各コマにおける授業予定	病院実習 看護援助の実施・評価(外来での見学実習) 遊びや学習支援への参加・見学			
第12回	実習形式	授業を通じての到達目標	①これまでの関わりを振り返り、全体像をまとめる。②最終カンファレンスで関連図を用いて全体像を口述発表する。	所持している教科書・参考書 小児看護学に関する授業資料まとめファイル	実習を通して必要な事前事後学習を行う。
	各コマにおける授業予定	病院実習 午前:実習のまとめ 午後:実習のまとめと最終カンファレンス、実習記録の提出			